

条幅規定

師範正 山口 裕華

気魂のこもった深みのある大胆な線と筆脈、気脈の自然な流れが、作品に存在感を増し、威風堂々とした書きぶりを見る。書の仲間といっしょに新しい自分発見をしよう。朝は必ずやってくる。

条幅随意(臨書)

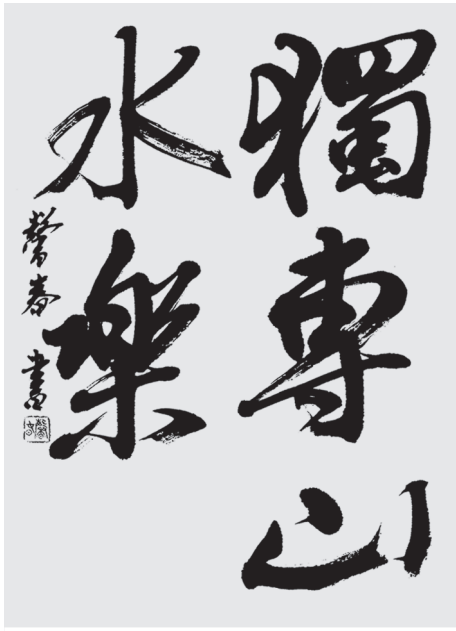
成家 松原 華月

少し大きさが気になるが、リズムに乗った思いきりよく引かれた線とその深みが、作品に存在感と生命感を与えている。書の基本は古典から。古典なくして書芸術は残らない。精進を期待する。

条幅随意

成家 坂井 浩子

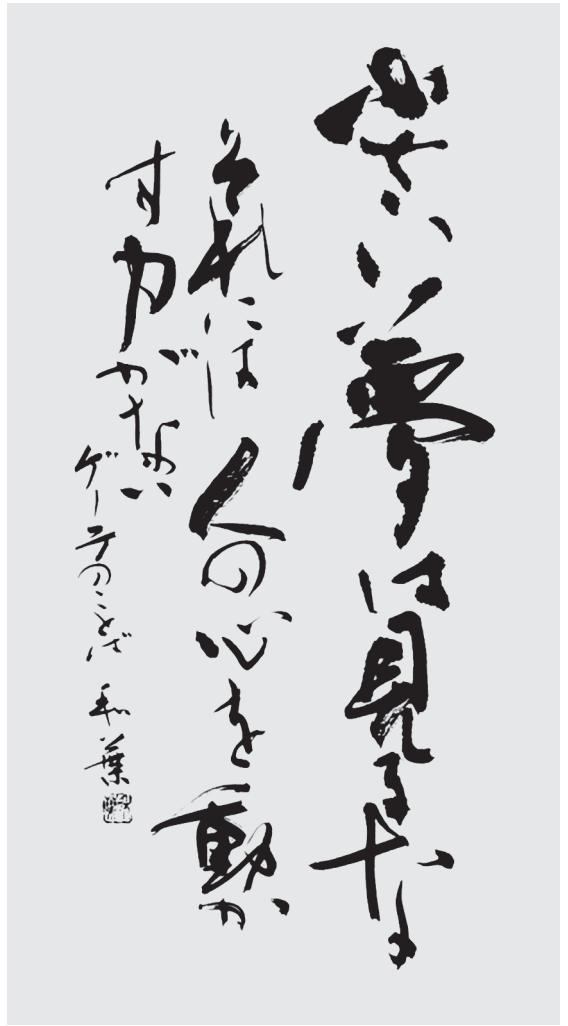
手慣れた筆捌きで、さらりと纏めた確かな腕の持ち主。日々の研鑽が実った作であるが、まだ手本を気にする感あり。時代は常に変化する。月例での更なる自由な挑戦が、作品づくりのヒントになるであろう。



半紙規定

師範正 佐田 馨春

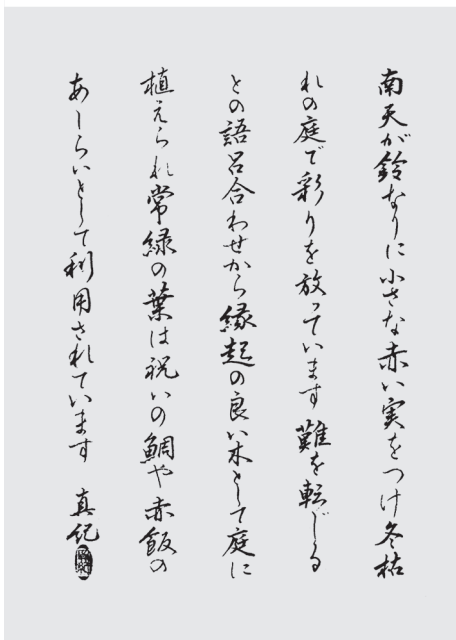
一点二画に気を払い、軸のしつかりとした構築性豊かな線で、紙・墨共に質もよく、完成度が高い作品で、日頃の書に対する真剣さも感じる。「書」を生涯の友としよう。



半紙随意

師範正 伊良子真紀

リズムに乗った線は生命感に溢れ、濁りが無い。手慣れた筆捌きと正統派の拘りと自信、書くことの楽しさも感じる。「書」の王道はここから始まる。更なる書芸術への挑戦に期待。



半折1/2縦

師範正 尾崎 和葉

手本を参考にしながらも自己の線で迷いなく、前向きに挑戦する姿勢に好感がもてる。字形も無理なデフォルメもなく可読性もあり自然で、古典の香りがする。書は理解出来てこそ価値を増す。



半紙随意(臨書)

師範 原田 清雪

形臨を大きく臨書すると線が重くなり、また、動きを出そうとすると雑になりがちで、表現が難しくなる。この作品は強さ、勢いの中にも穏やかさも兼ね備えた力作である。



学生部条幅 (1/4)

中三 特待生 長 花音

ねばりある線で、行書のリズムをしっかりと自分のものとし、伸びやかに書けています。さすが「特待生」の作品です。今後、一般部への挑戦を期待します。

中村 航大 小一 準8級

半紙いっぱいにとっても元氣よく、名前までとてもじょうずに書けています。おけいこの楽しさがつたわる作品です。

竹原由紀乃 小二 6級

一字一字お手本をよく見て、ていねいに、とてもじょうずに書けた作品です。このちょうしで三年生になってがんばってね。

中江 優斗 小三 準初段

基本の筆づかいがしっかりとできたらすばらしい作品です。名前のむずかしい漢字まで、よく練習ができています。期待大！

山本 瑠夏 小四 準二段

「ハネ」「ハライ」の筆づかいが少しおもしろい点もありますが、字形・バランスともにすばらしい作品です。名前もとても上手です。

葭田 実希 小五 準六段

お手本の細部までよく見て、漢字と平仮名のバランスも良く、伸びやかに書けています。更に上段位を目指してがんばってね。

山下 瑞葉 小五 準四段

明るくすっきりとした線と、とても形良く書けています。この調子で一枚でも多く練習し、上段位を目指して下さいね。期待大！

辻本 拓真 小六 準特待生

書き始めから名前まで、お手本をよく見て、バランス良く書けています。この調子で枚数を重ね、「特待生」を目指して下さい。

山本 琴乃 中一 準五段

正しい筆づかいで形良く、明るく書けています。上位の有段者に負けない力を持っています。今後、更に期待しています。

鶴崎 栞奈 中二・三 特待生

「継続は力なり」私の一番好きな言葉です。その言葉どおりの見事な白眉な作品です。この集中力で一般部でも頑張ってください。

# 硬筆部最優秀作品

(2月末日締切分)

(坂元紫香先生評)

段級  
氏名  
カンガルーの赤  
ちゃんは、生まれ  
たときは、一円玉  
ぐらいのおもちゃだ  
一ねんおかあおい

段級  
氏名  
ふだんの生活に関するギ  
もんをグループで調さし  
て、クラスのみんなにし料  
を使って、発表しましょう。

段級  
氏名  
世の中の出来事にはさまざ  
まな見方がある。新しい情報  
を聞けば聞くほどだんだんと  
多くのことが見えてきて、少  
ずつ事実の形が分かっていく。

段級  
氏名  
夜遅く、出窓で見張っていた弟が  
「帰ってきたよ」と叫んだ。茶の間に  
座っていた父は、はだして表へ飛び  
出した。防火用水桶の前で、やせた  
妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。

段級  
氏名  
スーホのうつくし  
い歌声は、草原を  
こえ、遠くまでひ  
びいていききました。

段級  
氏名  
ふだんの生活に関するギ  
もんをグループで調さし  
て、クラスのみんなにし料  
を使って、発表しましょう。

段級  
氏名  
私が自分に自信がなかったのは、  
自信がもてるまで練習を積み  
重ねていなかったからだ。私には、  
どこか、「このくらいでいいかな。」  
と満足してしまうところがある。

書譜  
立春を過ぎ、少しずつ春が動き出して  
きましたね。  
近くの公園に、毎年楽器一みだりに  
河津桜が咲き始めました。また、僕も  
あります。濃い桃色の鮮やかなに、元気を  
もたらしています。この場所は、ソメイヨシノ、  
八重桜と、連年の頃まで様々な種類が咲き、  
長く楽しむことができます。  
ウオーキングの新コースに如何ですか。  
白石砂子園

段級  
氏名  
話したり、文章を書くこ  
きには、自分の気持ちや  
表したい様子に合う言  
葉をえらびましょう。

段級  
氏名  
世の中の出来事にはさまざ  
まな見方がある。新しい情報  
を聞けば聞くほどだんだんと  
多くのことが見えてきて、少  
ずつ事実の形が分かっていく。

段級  
氏名  
夜遅く、出窓で見張っていた弟が  
「帰ってきたよ」と叫んだ。茶の間に  
座っていた父は、はだして表へ飛び  
出した。防火用水桶の前で、やせた  
妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。

段級  
氏名  
桂離宮を拝見して、改めて竹の美し  
さに打たれた。冬の日は、まじまじと  
と鳴る竹の群れは、清寂そのものであ  
り、表門にたつた穂垣のたまたま  
は、人の心を和ませるものがあった。

岡 碧緯  
小一 4級  
しっかりとした  
強い線で、一字  
一字お手本をよ  
く見て、とても  
じょうずに書け  
ましたね。しつ  
かりと練習ので  
きた作品です。

木下こころ  
小二 5級  
マスいっぱい  
とてもきれいに、  
元気よく書いて  
います。お手本  
と見まがうほ  
ど、とてもじよ  
うずなすばらし  
い作品です。

森 千歳  
小三 準二段  
書き始めから名  
前まで、お手本  
をよく見て、と  
てもじょうずに  
書いています。  
さすが有段者の  
作品です。今後  
に期待大です。

福田 ゆい  
小四 準五段  
ペンを上手に使  
って、漢字と平  
仮名のバランス  
も良く、明るく  
書きましたね。  
いつも、毛筆と  
もによく練習が  
できています。

齋藤 翠  
小四 三段  
お手本の細かな  
所までよく見て、  
ペンを上手に使  
って、丁寧に書  
けています。  
この調子でこれ  
からもがんばっ  
てください。

松尾 楓花  
小五 準六段  
書き始めから名  
前まで集中力を  
切らすことなく、  
一生懸命にと  
ても上手に書け  
ています。さす  
が、上位有段者  
の作品です。

奥田 紗良  
小五 準六段  
明るく、すつき  
りと伸びのある  
線に魅力を感じ  
る作品です。字  
形・バランスと  
もにすばらしい。  
今後の紗良さん  
に期待大です。

阪 祐人  
小六 準五段  
お手本をよく見  
て、一字一字丁  
ねいに、ペンを  
上手に使って書  
けています。ペ  
ンの持ち方や姿  
勢に気をつけて  
更に頑張つてね。

清川 詩乃  
中学 特待生  
さすが特待生  
の作品です。完  
成度の高さがす  
ばらしい。今後  
は、ペンを軽く  
握ると伸びやか  
さが増すと思っ  
ます。期待大!

蕨野 里香  
中学 特待生  
明るく伸びのあ  
る線で、とても  
上手に書いてい  
ます。継続は力  
なりですね。今  
後は、一般部へ  
も挑戦しません  
か。期待します。

白石砂子  
一般 師範正  
人柄を感じさせ  
る大らかで優し  
い筆致で流れ良  
く書かれ、心地  
のよい音楽が聴  
こえてくるよう  
です。流石、師範  
正の作品です。

福田喜久恵  
一般 師範  
お手本の細部ま  
でよく観察され  
て、行書の流れを自  
分のものとし、  
気負いのない筆  
致が字形・バラ  
ンスとともに見  
事です。